

数学 2 (問題)

1. 次の各問の に入る答のみを、所定の解答用紙に記入せよ。必要ならば、末尾に示す数値を用いよ。 (各問5点, 計50点)

- (1) 次のデータはある試験片の硬度 x と引張り強さ y の測定値である。このデータを回帰分析により解析して、 y の x に対する回帰式を求めると $y = \text{} x + \text{}$ である。

硬 度	55	55	55	65	65	70	70	80	80	85	85	85
引張り強さ	29	32	31	31	34	36	35	36	33	37	35	36

- (2) 大きさ n の有限母集団から非復元抽出で選んだ大きさ $n-1$ の標本変量の平均を \bar{X} とするとき、 \bar{X} の分散 $V(\bar{X}) = \text{} \times \sigma^2$ である。

- (3) 確率密度関数 $f(x) = \begin{cases} (k+1)x^k & (0 \leq x \leq 1, k > -1) \\ 0 & (\text{その他}) \end{cases}$

をもつ母集団から n 個の標本 $X_1, X_2, X_3, \dots, X_n$ が得られたとき、 k の最尤推定量は である。

- (4) 確率密度関数 $f(x) = \begin{cases} \frac{1}{a} & (b - \frac{1}{2}a \leq x \leq b + \frac{1}{2}a, a > 0) \\ 0 & (\text{その他}) \end{cases}$

をもつ母集団から n 個の標本 $X_1, X_2, X_3, \dots, X_n$ が得られたとき、 a の最尤推定量は である。

- (5) ある町での候補者 A の支持率を信頼度 99% で誤差は 1% 以内になるように推定するには、およそ 人以上の標本をとればよい。

- (6) 29人の子どもを任意抽出し、1日あたりのテレビの視聴時間を調査した結果、視聴時間の平均は 4.6時間、標準偏差は 2.7時間であった。このとき、1日あたりの平均視聴時間の信頼係数 95% の信頼区間は、 である。ただし、母集団は、正規分布に従っているものとする。

- (7) 一様分布 $f(x) = \begin{cases} \frac{1}{\theta} & (0 \leq x \leq \theta, \theta > 0) \\ 0 & (\text{その他}) \end{cases}$

に従う母集団において、統計量 $T = \alpha \max(X_1, X_2, \dots, X_n)$ が母数 θ の不偏推定量であるためには、 $\alpha = \text{}$ でなければならない。

- (8) 正規分布 $N(\mu_1, \sigma_1^2)$ に従う母集団からの標本変量を X_i ($i = 1, 2, \dots, n_1$)、正規分布 $N(\mu_2, \sigma_2^2)$ に従う母集団からの標本変量を Y_i ($i = 1, 2, \dots, n_2$) とし、 X_i ($i = 1, 2, \dots, n_1$) と Y_i ($i = 1, 2, \dots, n_2$) がたがいに独立とするとき、

$$\bar{X} = \frac{\sum_{i=1}^{n_1} X_i}{n_1}, \quad S_1^2 = \frac{\sum_{i=1}^{n_1} (X_i - \bar{X})^2}{n_1 - 1},$$

$$\bar{Y} = \frac{\sum_{i=1}^{n_2} Y_i}{n_2}, \quad S_2^2 = \frac{\sum_{i=1}^{n_2} (Y_i - \bar{Y})^2}{n_2 - 1} \quad \text{とすると、}$$

統計量 $\frac{\frac{n_1 S_1^2}{(n_1 - 1) \sigma_1^2}}{\frac{n_2 S_2^2}{(n_2 - 1) \sigma_2^2}}$ は、自由度 の 分布に従う。

(9) 正規分布 $N(\mu, 25)$ に従う母集団から大きさ $n=9$ の標本を抽出し、
 仮説 $H_0: \mu=10$, 対立仮説 $H_1: \mu=12$ を有意水準5%で検定したい。その際、検出力
 が最大になるように棄却域を定めるとすれば、棄却域は である。

(10) 上記 (9) で定めた検定における (最大の) 検出力は である。

2. ある電気部品の寿命の分布が、確率密度関数

$$f(x; \mu) = \begin{cases} \frac{1}{\mu} e^{-\frac{x}{\mu}} & (x > 0) \\ 0 & (\text{その他}) \end{cases}$$

の指数分布に従う母集団から、 N 個のサンプルを取り出して同時に試験をはじめ、その寿命時間が
 小さいものから順に n 個 ($n \leq N$) 測定して、測定値 X_1, X_2, \dots, X_n ($X_1 \leq X_2 \leq \dots \leq X_n$)
 を得たとする。

(1) μ の最尤推定量 $\hat{\mu}$ を求めよ。

(2) $\hat{\mu}$ は μ の不偏推定量であることを示せ。

(25点)

3. 母集団が、確率密度関数

$$f(x; \mu) = \begin{cases} \frac{1}{\mu} e^{-\frac{x}{\mu}} & (x > 0) \\ 0 & (\text{その他}) \end{cases}$$

の指数分布に従うとき、 n 個の標本 x_1, x_2, \dots, x_n を用いて仮説 $\mu = \mu_0$ を、対立仮説
 $\mu \neq \mu_0$ に対して検定する。

(1) μ_0 が標本平均 \bar{x} に等しくないとき、尤度比 λ を求めよ。

(2) 有意水準 ϵ の棄却域を求めよ。

ただし、平均値2の指数分布を母集団とする n 個の標本の和は、自由度 $2n$ の χ^2 分布に従うこと
 は証明なしに用いてよい。

(25点)

数表:

標準正規分布 $N(0,1)$ の上側 ϵ 点 $u(\epsilon)$

$u(0.005) = 2.58$	$u(0.498) = 0.005$
$u(0.010) = 2.33$	$u(0.496) = 0.010$
$u(0.025) = 1.96$	$u(0.490) = 0.025$
$u(0.050) = 1.64$	$u(0.480) = 0.050$
$u(0.35) = 0.39$	$u(0.363) = 0.35$
$u(0.36) = 0.36$	$u(0.359) = 0.36$
$u(0.37) = 0.33$	$u(0.356) = 0.37$
$u(0.38) = 0.31$	$u(0.352) = 0.38$
$u(0.39) = 0.28$	$u(0.348) = 0.39$
$u(0.40) = 0.25$	$u(0.345) = 0.40$

自由度 n の t 分布の上側 ϵ 点 $t_n(\epsilon)$

$t_8(0.005) = 3.355$	$t_8(0.025) = 2.306$
$t_9(0.005) = 3.250$	$t_9(0.025) = 2.262$
$t_{10}(0.005) = 3.169$	$t_{10}(0.025) = 2.228$
$t_{28}(0.005) = 2.763$	$t_{28}(0.025) = 2.048$
$t_{29}(0.005) = 2.756$	$t_{29}(0.025) = 2.045$
$t_{30}(0.005) = 2.750$	$t_{30}(0.025) = 2.042$
$t_8(0.01) = 2.896$	$t_8(0.05) = 1.860$
$t_9(0.01) = 2.821$	$t_9(0.05) = 1.833$
$t_{10}(0.01) = 2.764$	$t_{10}(0.05) = 1.812$
$t_{28}(0.01) = 2.467$	$t_{28}(0.05) = 1.701$
$t_{29}(0.01) = 2.462$	$t_{29}(0.05) = 1.699$
$t_{30}(0.01) = 2.457$	$t_{30}(0.05) = 1.697$

数学2 (解答例)

1.

(1) $u = \frac{x-70}{5}$, $v = y-33$ とすると,

x	y	u	v	u ²	v ²	uv
55	29	-3	-4	9	16	12
55	32	-3	-1	9	1	3
55	31	-3	-2	9	4	6
65	31	-1	-2	1	4	2
65	34	-1	1	1	1	-1
70	36	0	3	0	9	0
70	35	0	2	0	4	0
80	36	2	3	4	9	6
80	33	2	0	4	0	0
85	37	3	4	9	16	12
85	35	3	2	9	4	6
85	36	3	3	9	9	9
合計		2	9	64	77	55

$$\begin{aligned}\bar{x} &= 5\bar{u} + 70 \\ &= 5 \times \frac{2}{12} + 70 = 70.833\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\bar{y} &= \bar{v} + 33 \\ &= \frac{9}{12} + 33 = 33.75\end{aligned}$$

求める回帰式を,
 $(y - \bar{y}) = \beta (x - \bar{x})$
 とすると,

$$\begin{aligned}\hat{\beta} &= \frac{\sum_{i=1}^n x_i y_i - n \bar{x} \bar{y}}{\sum_{i=1}^n x_i^2 - n \bar{x}^2} \\ &= \frac{\sum_{i=1}^n u_i v_i - n \bar{u} \bar{v}}{\sum_{i=1}^n u_i^2 - n \bar{u}^2} \times \frac{1}{5} \\ &= \frac{55 - \frac{2 \times 9}{12}}{64 - \frac{12}{12}} \times \frac{1}{5} = 0.168\end{aligned}$$

$$y = \boxed{0.168} x + \boxed{21.85}$$

(2) 母平均を0としても一般性を失わない。母集団から x_k 以外の $N-1$ 個が選ばれたとする。

そのとき, $\bar{X} = \frac{\sum_{i=1}^N x_i - x_k}{N-1} = -\frac{x_k}{N-1}$

$$\text{Var}(\bar{X}) = \text{Var}\left(-\frac{x_k}{N-1}\right) = \frac{1}{(N-1)^2} \text{Var}(X) = \boxed{\frac{1}{(N-1)^2}} \times \sigma^2$$

(3) 尤度方程式は $\frac{d}{dk} \log \prod_{i=1}^n (k+1) x_i^k = 0$ である。

$$\sum_{i=1}^n \frac{d}{dk} \log (k+1) x_i^k = 0$$

$$\sum_{i=1}^n \frac{d}{dk} \log (k+1) + \sum_{i=1}^n \frac{d}{dk} k \log x_i = 0$$

$$\frac{n}{k+1} + \sum_{i=1}^n \log x_i = 0$$

$$k = \boxed{-1 - \frac{n}{\sum_{i=1}^n \log X_i}}$$

(4) $a \geq \max(x_1, x_2, \dots, x_n) - \min(x_1, x_2, \dots, x_n)$ だから,

$$\text{尤度関数 } l(a) = \prod_{i=1}^n f(x_i; a) = \frac{1}{a^n} \leq \frac{1}{[\max(x_1, x_2, \dots, x_n) - \min(x_1, x_2, \dots, x_n)]^n}$$

$\max(X_1, X_2, \dots, X_n) - \min(X_1, X_2, \dots, X_n)$ が最尤推定量。

(5) 母集団の支持率を p , 標本の支持率を \hat{p} とする。標本数 n が大きい場合、信頼度 99% で p の信頼区間は,

$$\left(\hat{p} - u(0.005) \sqrt{\frac{\hat{p}(1-\hat{p})}{n}}, \hat{p} + u(0.005) \sqrt{\frac{\hat{p}(1-\hat{p})}{n}} \right)$$

ここで, $u(0.005)$ は 標準正規分布の上方 0.005 点。

$$u(0.005) \cdot \sqrt{\frac{\hat{p}(1-\hat{p})}{n}} = 0.01 \text{ となるように } n \text{ を定めればよい。}$$

$\hat{p}(1-\hat{p})$ は, $\hat{p}=0.5$ のとき最大値をとるので,

$$n = (2.58 \times 100)^2 \times 0.5 \times (1-0.5) = \boxed{16,641}$$

(6) 標本の大きさを $n (=29)$, 標本変量平均を \bar{X} , 標本変量分散を $S^2 = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2$ とおく。また母平均を μ とする。

統計量 $T = \frac{\bar{X} - \mu}{S/\sqrt{n-1}}$ は, 自由度 $\phi = n-1$ の t -分布に従う。

$t_0(\frac{\epsilon}{2})$ を, 自由度 ϕ の t -分布の上側 $\frac{\epsilon}{2}$ 点とすれば,

$$P \left\{ -t_0(\frac{\epsilon}{2}) < T = \frac{\bar{X} - \mu}{S/\sqrt{n-1}} < t_0(\frac{\epsilon}{2}) \right\} = 1 - \epsilon$$

変形すると,

$$P \left\{ \bar{X} - t_0(\frac{\epsilon}{2}) \frac{S}{\sqrt{n-1}} < \mu < \bar{X} + t_0(\frac{\epsilon}{2}) \frac{S}{\sqrt{n-1}} \right\} = 1 - \epsilon$$

$\bar{X}=4.6$, $S=2.7$, $n=29$, $t_{28}(0.025) = 2.048$ を代入して,

μ の信頼区間 $\boxed{(3.6, 5.6)}$ を得る。

(7) T が θ の不偏推定量となるためには,

$$E(T) = \theta$$

となるように α を定めればよい。

$\max(X_1, X_2, \dots, X_n)$ の確率密度関数は,

$$n \left(\frac{x}{\theta} \right)^{n-1} \cdot \frac{1}{\theta}$$

であるから,

$$E(T) = \int_0^{\theta} x \cdot \alpha n \left(\frac{x}{\theta} \right)^{n-1} \cdot \frac{1}{\theta} dx$$

$$= \alpha \cdot \frac{n}{n+1} \cdot \theta$$

したがって,

$$\alpha = \boxed{\frac{n+1}{n}}$$

(8)

自由度 $(n_1 - 1, n_2 - 1)$ の F 分布に従う。

(9) $H_0 : \mu = 10$, $H_1 : \mu = 12$ において, $10 < 12$ であるから, 検出力を最大にするためには右側検定を行うことになる。このとき, H_0 の棄却域を (C, ∞) (C は定数)としたとき, 題意より,

$$P(\bar{X} > C \mid \mu = 10) = 0.05$$

$H_0 : \mu = 10$ が正しいという条件のもとでは, \bar{X} は正規分布 $N(10, \frac{5^2}{9})$ に従うことから, 上式を変形して,

$$P\left(\frac{\bar{X} - 10}{5/\sqrt{9}} > \frac{C - 10}{5/\sqrt{9}} \mid \mu = 10\right) = 0.05$$

これを満たすためには,

$$\frac{C - 10}{5/\sqrt{9}} = u(0.05) \quad (= \text{標準正規分布の上側5\%点} = 1.64)$$

でなければならない。これを C について解いて,

$$C = 12.733\cdots \text{ を得る。}$$

$$\bar{X} > 12.74$$

(10) 一方, 検出力は,

$$P(\bar{X} \leq C \mid \mu = 12)$$

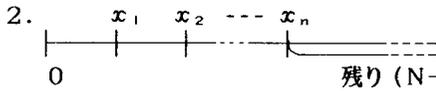
で表される。 $H_1 : \mu = 12$ が正しいという条件のもとでは, \bar{X} は $N(12, \frac{5^2}{9})$ に従うから, 上式を変形して, 検出力は,

$$P\left(\frac{\bar{X} - 12}{5/\sqrt{9}} > \frac{C - 12}{5/\sqrt{9}} \mid \mu = 12\right)$$

$C = 12.74$ を代入すると,

$$\begin{aligned} & P\left(\frac{\bar{X} - 12}{5/\sqrt{9}} > 0.444 \mid \mu = 12\right) \\ &= \int_{-\infty}^{0.444} \frac{1}{\sqrt{2\pi}} e^{-\frac{t^2}{2}} dt = 1 - u(0.444) = 1 - 0.330 = 0.670 \end{aligned}$$

$u(0.444)$ は, 数表から補外で求める。



(1) N 個のサンプルのうち, x_1, x_2, \dots, x_n がそれぞれ1つ, $(N-n)$ 個は x_n 以上.
 $F(x, \theta)$ を分布関数とするとき, 尤度関数

$$L(\theta) = \frac{N!}{1! 1! \dots 1! (N-n)!} f(x_1; \theta) f(x_2; \theta) \dots f(x_n; \theta) \{1 - F(x_n; \theta)\}^{N-n}$$

$$= \frac{N!}{(N-n)!} \frac{1}{\theta^n} \exp\left\{-\frac{1}{\theta} \left(\sum_{i=1}^n x_i + (N-n)x_n\right)\right\}$$

$$\frac{\partial}{\partial \theta} \log L(\theta) = -\frac{n}{\theta} + \frac{1}{\theta^2} \left(\sum_{i=1}^n x_i + (N-n)x_n\right)$$

尤度方程式 $\frac{\partial}{\partial \theta} \log L(\theta) = 0$ を解いて,

$$\theta = \frac{1}{n} \left(\sum_{i=1}^n x_i + (N-n)x_n\right)$$

μ の最尤推定量 $\hat{\mu} = \frac{1}{n} \left(\sum_{i=1}^n X_i + (N-n)X_n\right)$

(2) $0 \leq x_1 \leq x_2, 0 \leq x_2 \leq x_3, \dots, 0 \leq x_{n-1} \leq x_n, 0 \leq x_n < \infty$ だから,

$$E(\hat{\mu}) = \int_0^\infty dx_n \int_0^{x_n} dx_{n-1} \dots \int_0^{x_2} dx_2 \int_0^{x_1} dx_1 \frac{1}{n} \left(\sum_{i=1}^n x_i + (N-n)x_n\right)$$

$$\times \frac{N!}{(N-n)!} \frac{1}{\mu^n} \exp\left\{-\frac{1}{\mu} \left(\sum_{i=1}^n x_i + (N-n)x_n\right)\right\}$$

$$y_1 = x_1 + (N-1)x_n$$

$$y_k = \sum_{i=1}^k x_i + (N-k)x_n$$

$$y_n = \sum_{i=1}^n x_i + (N-n)x_n \quad \text{とおく.}$$

$$y_{k+1} - y_k = \left(\sum_{i=1}^{k+1} x_i + (N-k-1)x_{k+1}\right) - \left(\sum_{i=1}^k x_i + (N-k)x_k\right)$$

$$= x_{k+1} + (N-k-1)x_{k+1} - (N-k)x_k$$

$$= (N-k)(x_{k+1} - x_k)$$

$y_{k+1} \geq y_k \iff x_{k+1} \geq x_k$ だから, $y_1 \leq y_2 \leq \dots \leq y_{n+1} \leq y_n$

$$\frac{\partial y_1}{\partial x_1} \frac{\partial y_2}{\partial x_2} \dots \frac{\partial y_n}{\partial x_n} = \begin{vmatrix} N & 0 & 0 & 0 & \dots & 0 \\ 1 & N-1 & 0 & 0 & \dots & 0 \\ 1 & 1 & N-2 & 0 & \dots & 0 \\ \dots & \dots & \dots & \dots & \dots & \dots \\ 1 & 1 & 1 & \dots & 1 & N-n+1 \end{vmatrix} = \frac{N!}{(N-n)!}$$

$$E(\hat{\mu}) = \int_0^\infty dy_n \int_0^{y_n} dy_{n-1} \dots \int_0^{y_2} dy_2 \int_0^{y_1} dy_1 \frac{y_n}{n \mu^n} \exp\left(-\frac{y_n}{\mu}\right)$$

$$= \int_0^\infty \frac{y_n}{n \mu^n} \exp\left(-\frac{y_n}{\mu}\right) \frac{y_n^{n-1}}{(n-1)!} dy_n$$

$$= \int_0^\infty \frac{y_n^n}{n! \mu^n} \exp\left(-\frac{y_n}{\mu}\right) dy_n \quad \text{----- (A)}$$

$$= \left[-\frac{y_n^n}{n! \mu^{n-1}} \exp\left(-\frac{y_n}{\mu}\right) \right]_0^\infty + \int_0^\infty \frac{y_n^{n-1}}{(n-1)! \mu^{n-1}} \exp\left(-\frac{y_n}{\mu}\right) dy_n$$

$$= \int_0^\infty \frac{y_n^{n-1}}{(n-1)! \mu^{n-1}} \exp\left(-\frac{y_n}{\mu}\right) dy_n \quad \text{----- (B)}$$

$$= \int_0^\infty \exp\left(-\frac{y_n}{\mu}\right) dy_n = \mu \quad \text{((A) } \Rightarrow \text{ (B) を繰り返す)}$$

----- $\hat{\mu}$ は μ の不偏推定量である.

3. 帰無仮説 $H_0 : \mu = \mu_0$, 対立仮説 $H_1 : \mu \neq \mu_0$ として検定する。尤度比入は,

$$\lambda = \frac{\prod_{i=1}^n f(x_i; \mu_0)}{\max_{\mu \neq \mu_0} \prod_{i=1}^n f(x_i; \mu)} = \frac{\mu_0^{-n} \exp\left(-\frac{1}{\mu_0} \sum_{i=1}^n x_i\right)}{\max_{\mu \neq \mu_0} \mu^{-n} \exp\left(-\frac{1}{\mu} \sum_{i=1}^n x_i\right)} = \frac{\mu_0^{-n} \exp\left(-\frac{n}{\mu_0} \bar{x}\right)}{\max_{\mu \neq \mu_0} \mu^{-n} \exp\left(-\frac{n}{\mu} \bar{x}\right)}$$

$$\frac{\partial}{\partial \mu} \log \left\{ \mu^{-n} \exp\left(-\frac{n}{\mu} \bar{x}\right) \right\} = \frac{\partial}{\partial \mu} \left(-n \log \mu - \frac{n}{\mu} \bar{x} \right) = -\frac{n}{\mu} + \frac{n}{\mu^2} \bar{x}$$

これが0となるのは, $\mu = \bar{x}$, $\mu^{-n} \exp\left(-\frac{n}{\mu} \bar{x}\right)$ が最大になるのは $\mu = \bar{x}$ のとき。

$$\mu_0 \neq \bar{x} \text{ ならば, } \lambda = \frac{\mu_0^{-n} \exp\left(-\frac{n}{\mu_0} \bar{x}\right)}{\bar{x}^{-n} e^{-n}} = e^n \left(\frac{\bar{x}}{\mu_0}\right)^n \exp\left(-n \frac{\bar{x}}{\mu_0}\right)$$

$0 \leq \lambda \leq 1$ だから, 尤度比検定の棄却域は片側で $0 \leq \lambda < e^{-n} K^n$ となる。
($K < e^{-1}$ 、有意水準を ϵ とする)

$$\text{棄却域は } 0 \leq \frac{\bar{x}}{\mu_0} \exp\left(-\frac{\bar{x}}{\mu_0}\right) < K$$

ここで, $y = x e^{-x}$ ($x \geq 0$) は,

x	0	1	∞
y	0	e^{-1}	0

だから, 棄却域は $0 \leq \frac{\bar{x}}{\mu_0} < K_1 < 1$, $1 < K_2 < \frac{\bar{x}}{\mu_0}$

x は 平均 μ_0 の指数分布に従うとすると, $x \frac{2}{\mu_0}$ は平均2の指数分布をする。

問題文より, $\frac{2n\bar{X}}{\mu_0}$ は自由度 $2n$ の χ^2 分布に従う。

$$K_1 = \frac{1}{2n} \chi_{2n}^2(1 - \epsilon_1) \quad K_2 = \frac{1}{2n} \chi_{2n}^2(\epsilon_2) \quad \epsilon_1 + \epsilon_2 = \epsilon$$

を満たす ϵ_1, ϵ_2 について

$$\bar{x} < \frac{\mu_0}{2n} \chi_{2n}^2(1 - \epsilon_1) \quad \text{と} \quad \bar{x} > \frac{\mu_0}{2n} \chi_{2n}^2(\epsilon_2) \quad \text{のとき } H_0 \text{ を棄却すればよい。}$$

ただし, ここでは $\frac{2n\bar{X}}{\mu_0}$ の両側から $\frac{\epsilon}{2}$ ずつ棄却域を取るとして

$$\text{棄却域を } \bar{x} < \frac{\mu_0}{2n} \chi_{2n}^2\left(1 - \frac{\epsilon}{2}\right) \quad \text{と} \quad \bar{x} > \frac{\mu_0}{2n} \chi_{2n}^2\left(\frac{\epsilon}{2}\right) \quad \text{としてもよい。}$$